

平成22年2月期 決算参考資料

米久株式会社
(東証一部：2290)

1. 当期の業績に影響を与えた主な項目

- 1) 国内食肉相場は全ての畜種において前下半期からの安値傾向が継続、売上高と利益の減少に影響
- 2) 一昨年後半に価格が急落したブラジル産冷凍鶏肉の在庫調整が第1四半期に完了、前期に比べ関連損失が減少
- 3) ハム・ソーセージ等の原料用輸入豚肉価格が5年ぶりに低下、加工品の粗利率向上に寄与
- 4) 消費者の低価格品志向が高まり、加工品の販売単価が下落、売上高の減少に影響
- 5) チムニー(株)が、居酒屋業界の価格競争激化などにより、上場来初の減益
- 6) 為替(対USドル)は円高基調で推移、輸入仕入コストが低下
- 7) 昨年6月に四日市支店を開設、三重県を中心とするエリアへの営業力を強化
- 8) 昨年6月に冷凍デリカ製品製造のアンゼンフーズ(株)を子会社化し、加工品事業を強化
- 9) 昨年12月にカーライル・グループによるチムニー(株)の株式公開買付に応募、保有株式を譲渡し特別利益を計上
- 10) 昨年12月にデリカ製品製造のヤマキ食品(株)を(株)セブンフードサービスに経営統合

2. 当期(平成21年3月1日～平成22年2月28日)の連結業績

	当期実績	前期実績	伸び率(%)	前回(3Q)予想
売上高	168,717	172,613	2.3	168,500
営業利益	4,387	4,646	5.6	4,240
経常利益	4,539	4,635	2.1	4,220
当期純利益	2,863	1,001	186.1	2,760
EPS(円)	100.09	34.85	-	-
ROE(%)	7.4	2.8	-	-
ROA(%)	6.9	6.4	-	-

注1) ROAは事業利益(営業利益+営業外収益)にて算出しております。

注2) チムニー(株)につきましては、当期連結P/Lには同社業績を含みますが、連結B/Sからは除外しております。

3. 連結業績の推移

金額単位 百万円

	平成18年2月期	平成19年2月期	平成20年2月期	平成21年2月期	平成22年2月期
売上高	138,398	145,777	166,046	172,613	168,717
営業利益	3,640	4,083	4,102	4,646	4,387
経常利益	3,682	4,079	4,103	4,635	4,539
当期純利益	1,329	1,043	2,189	1,001	2,863
純資産	34,108	36,790	39,805	40,666	37,191
総資産	66,847	71,053	77,465	83,903	61,371
一株当たり純資産:円	1,185.66	1,183.60	1,227.30	1,227.52	1,335.32
一株当たり当期純利益:円	44.92	36.30	76.18	34.85	100.09

4. セグメント別業績の推移

金額単位 百万円

		平成18年2月期	平成19年2月期	平成20年2月期	平成21年2月期	平成22年2月期
売上高	加工品・食肉事業	106,528	106,017	117,362	129,628	125,254
	外食事業	22,852	29,987	36,414	40,678	41,199
	その他事業	9,017	9,772	12,268	2,306	2,263
	連結合計	138,398	145,777	166,046	172,613	168,717
営業利益又は損失	加工品・食肉事業	1,800	1,640	940	1,211	1,151
	外食事業	1,832	2,312	3,032	3,443	3,186
	その他事業	19	105	100	28	32
	消去又は全社	27	25	28	21	17
	連結合計	3,640	4,083	4,102	4,646	4,387

5. 連結子会社一覧

金額単位 百万円

会社名	持分割合 (%)	売上高	総資産	事業内容
米久かがやき(株)	100.0	13,803	1,891	ハム・ソーセージ・デリカ製品の製造
米久デリカ(株)	100.0	6,393	2,364	ハム・ソーセージの製造
(株)日宏食品	100.0	1,895	357	ソーセージの製造
アンゼンフーズ(株)	100.0	2,864	2,419	冷凍デリカ製品の製造・販売
(株)セブンフードサービス	100.0	1,612	1,548	冷凍デリカ製品の製造・販売
国内加工品生産会社計		26,569	8,580	
YONEKYU U.S.A., Inc.	100.0	2,440	1,050	ソーセージの製造
海外加工品生産会社計		2,440	1,050	
米久東伯(株)	100.0	6,030	2,841	鶏肉の生産・加工・販売
おいしい鶏(株)	100.0	3,002	692	鶏肉の加工・販売
(株)マルフジ	100.0	1,737	325	牛肉の加工・販売
アイ・ポーク(株)	60.0	1,379	257	豚肉の加工・販売
食肉供給会社計		12,149	4,118	
御殿場高原 ビール(株)	60.6	1,869	892	地ビールレストランの経営
外食・レストラン経営会社計		1,869	892	
(株)平田屋	100.0	1,574	761	菓子の製造・販売
(株)吉野屋	100.0	501	233	書籍等の販売
その他の会社計		2,075	994	
< 連結子会社合計 >		45,105	15,636	

注1) ヤマキ食品(株)は、昨年12月に(株)セブンフードサービスに統合されました。

注2) 昨年12月に当社グループ保有のチムニー(株)の全株式を譲渡したため、同社はB/S上では連結除外となりました。但し、当期連結P/Lには同社業績が含まれており、その売上高は、393億31百万円であります。

6. 当期の業績

(1) 売上高

連結事業セグメントのうち、コア事業である加工品・食肉事業を推進する単体が、前期に引き続き、第4次中期経営計画の基本戦略に沿って販売数量を拡大しました。まず、加工品ではソーセージが国産・米国産のいずれも好調に推移し、YONEKYU U.S.A.,Inc.は増加する需要に応えるために年初より増産体制を組んでこれに対応しました。また、ハム等も順調に数量を伸ばしましたが、単価の下落により、売上高は微減となりました。デリカテッセンは、鶏肉加工品の不振が響き、売上高・数量とも減少しました。以上の結果、加工品全体では、数量が増加しましたが、売上高は微増に留まりました。一方、食肉では、豚肉・牛肉・鶏肉の全ての畜種において数量を伸ばしたものの、国内相場の低迷により売上高が減少しました。畜種別では、牛肉は輸入品の好調により売上高を伸ばしました。しかしながら、豚肉は、国内相場低迷に加え、これまで順調に拡大してきた北米産の冷蔵品が減少し、また、鶏肉も国内相場が前期の極めて高い状況を大きく下回ったことから、いずれも売上高が減少しました。これらの結果、単体の売上高は、3.9%の減収となりました。連結子会社では、新たに子会社となったアンゼンフーズ(株)がデリカテッセンの販路拡大に寄与しました。また、外食事業のチムニー(株)が、直営店中心に66店舗出店し、売上高を1.6%伸ばしました。一方、御殿場高原ビール(株)は、景気悪化に伴う来店客数の減少などにより、売上高が減少しました。

これらの結果、当期の売上高は、38億96百万円減少の1,687億17百万円(前期比2.3%減)となりました。

(2) 売上総利益

単体において、ハム・ソーセージ等加工品の主・副原料価格が5年ぶりに低下したことや、円高に起因した輸入品の調達コスト低減などにより、売上総利益率が0.5ポイント上昇しました。また、加工品製造子会社では、同じく主原料価格低下に加え、製造数量拡大により、ハム・ソーセージ等を製造している米久かがやき(株)と米久デリカ(株)の売上総利益が大幅に増加しました。一方、プロイラー関連事業の米久東伯(株)とおいしい鶏(株)は、飼料価格の低下があったものの、国産鶏肉相場下落により、売上総利益が大幅に減少しました。チムニー(株)が直営店舗の数を増やしたことにより、売上高と同様に売上総利益も増加しました。

これらの結果、当期の売上総利益は、8億89百万円増加の433億65百万円(前期比2.1%増)、売上総利益率は前期比1.1ポイント上昇の25.7%となりました。

(3) 販管費、営業利益

単体では、販売数量の増加に伴う物流費増や、開発を進めてきた新基幹システムの稼働開始に伴う減価償却費の増加、また、年金資産の運用環境悪化等に起因した退職給付費用の増加などにより、販管費は1.3%増加、売上高に対する販管費率は、前期に比べ0.6ポイント上昇の10.2%となりました。また、チムニー(株)では、引き続き直営店舗数の拡大により人件費や家賃・運賃・水道光熱費などが増加、同社の売上高販管費率は、0.7ポイント上昇の56.6%となりました。

これらの結果、当期の販管費は、11億48百万円増加の389億78百万円(前期比3.0%増)となり、売上高販管費率は1.2ポイント上昇の23.1%となりました。また、営業利益は、2億59百万円減少の43億87百万円(前期比5.6%減)となりました。

(4) 営業外損益、経常利益

連結ベースの営業外損益において、営業外収益が1億34百万円増加、営業外費用は28百万円の減少となりました。なお、このなかの持分法による投資損失は88百万円の増加となりました。

これらの結果、経常利益は、95百万円減少の45億39百万円(前期比2.1%減)となりました。

(5) 特別損益、税金等調整前当期純利益、当期純利益

連結ベースの特別損益において、特別利益は、チムニー社株式の譲渡による関係会社株式売却益43億45百万円など、全体で48億20百万円の増加となりました。次に、特別損失は、当期に固定資産除却損や減損損失など6億20百万円を計上したものの、前期において事業整理損失引当金繰入額9億30百万円を含め、18億12百万円計上したことから、11億91百万円の減少となりました。

これらの結果、税金等調整前当期純利益は59億16百万円増加の88億57百万円(前期比201.2%増)となりました。また、法人税等は41億20百万円増加、少数株主利益は66百万円の減少となりました。

以上の結果、当期純利益は、18億62百万円増加の28億63百万円(前期比186.1%増)となりました。

7. 次期業績予想の前提と主な取り組み

- (1) 第4次中期経営計画の最終年度として、引き続き食肉・加工品の販売数量拡大を見込む
- (2) 食肉の国内相場は、緩やかな回復を見込み、食肉生産子会社の業績向上に寄与と予想
- (3) 加工品の主・副原料価格は前年を若干上回ると見込む
- (4) 為替レートは足元を勘案し、1ドル = 95円と予想
- (5) 昨年6月から連結対象となったアンゼンフーズ(株)がフルに利益寄与
- (6) プロイラー生産事業の米久東伯(株)が生産効率を高めて供給能力を増強
- (7) 三菱商事(株)、伊藤ハム(株)との三社包括業務提携を継続推進
- (8) 全国営業拠点網の整備を推進
- (9) 機動的かつ効率的な連結経営体制構築に向け、グループ会社の集約を推進
- (10) チムニーが連結除外

8. 来期業績予想

金額単位 百万円

	上 期		通 期	
	金 額	伸び率(%)	金 額	伸び率(%)
売 上 高	70,700	14.0	143,000	15.2
営 業 利 益	920	45.5	2,500	43.0
経 常 利 益	930	45.0	2,530	44.3
当 期 純 利 益	530	13.4	1,400	51.1
E P S (円)	18.52	-	48.93	-

注)伸び率が低いのは、チムニー(株)が連結除外となったことによります。

9. 設備投資及び減価償却費

(1)設備投資額 金額単位 百万円

		金 額	主な内容(通期予想では下半期における内容を記載)	
連 結	当期実績	3,471	米久 工場設備更新 1億93百万円	システム関連投資 1億82百万円
			米久東伯 鶏舎設備 2億56百万円	グループ工場設備更新 2億21百万円
			チムニー新店投資 23億54百万円	
	次期予想	2,150	米久 工場設備更新 3億80百万円	システム関連投資 4億30百万円
			米久東伯 能力増強 4億79百万円	グループ工場設備更新 4億70百万円

(2)減価償却費 金額単位 百万円

		金 額
連 結	当期実績	3,956
	次期予想	1,920